

みなさま、こんにちは  
中間市長の福田健次です。

本年度から小学校ではプログラミング教育が始まりました。  
プログラミング教育のねらいのひとつに「プログラミング的思考」を育むことが挙げられます。「プログラミング的思考」とは、自らが意図した行動をさせるにはどのように記号を組み合わせればいいのか、どのように改善すればいいのかを考える力なのです。

また、プログラムの働き、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることに気付くことができるようにし、コンピュータ等を活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこともねらいとされています。

こうしたことを踏まえて、中間市においても、市内の企業様から寄贈していただいたロボット「メカトロウィーゴ」を使って、11月に小学校全6校すべての5年生を対象に各クラスでプログラミング教育を実施しました。

さらに、11月28日にはピザクックを運営する株式会社イワタダイナース様から提供いただいた人型ロボット「Pepper」※による研修も行いました。

ロボットを使うことで、子どもたちはプログラミングに対する興味・関心を高め、苦手意識を払拭することができます。

ヨーロッパでは、「IT力」が、若者が労働市場に入るために必要不可欠な要素であると認識されています。今後、国際社会において「IT力」をめぐる競争が激化することが予想され、子どもころから「IT力」を育成して裾野を広げておかなければこの厳しい時代を勝ち抜くことはできないでしょう。

将来ある中間市の子どもたちが世界で活躍することができるよう、さらなるIT教育推進に力を入れてまいりますので、皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

※Pepperは、ソフトバンクロボティクス株式会社の商標および登録商標です。

令和2年12月4日  
中間市長 福田 健次